

## 「助かった命」を学習して

八代市立泉第八小学校 3年 松本 瑠華

わたしは道とくの授業で「助かった命」を学習して、わたしのいとこのことを考えました。

わたしのいとは、もともとみ船町に住んでいて、おととしの熊本地しんのひがいにあい、住んでいた家に住むことができないと言われて、わたしの家の近くに引っこしてきました。しかし、最初に引っこしてきたのはいとこ一人で、いとはおばあちゃんの家に住むことになりました。いとこの家族は家の片付けや引っこしのじゅんぴをするために、いとはについていくことができなかったそうです。わたしは家族と離ればなれになるのは、とてもつらかったらうと思います。そして、もしまた地しんがきて家がくずれてしまったら、家族がケガをしてしまうかもしれないと不安になりました。いとこも同じことを思っていたのか、わたしはいとこのあんなに不安な顔を見たことがありませんでした。

また、いとは通っていた学校はくずれたり、使うものが壊れたりして、授業をすることができなかったそうです。そして、学校の友だちもケガをしてしまったそうです。いつも当たり前に行っている学校に通えなかったり、仲良しのお友だちがケガをしてしまったりしたこともつらかったらうと思います。

ある日、わたしのお父さんが片付けを手伝いにいとこの家に行くことになりました。いつ帰るか分からないと言われ、わたしはとても不安でした。

「気をつけて行ってきてね。」

と声をかけると、お父さんは

「心配するな。」

と答えました。でもまだ不安な気持ちは残ったままでした。2日後、お父さんが帰ってきました。すると車の中から、

「おねえちゃん、るうちちゃん。」

と声がしました。いとこの妹もお父さんについてきました。それを見たいとは、少しほっとした顔でした。わたしも、お父さんがぶじに帰ってきてほっとしました。その次の日には、いとこのお兄ちゃんとお母さんとお父さんが、おばあちゃんの家に来てきました。いとは大よろこびでした。いとこのお父さんは、

「もうちょっとまってね。もうちょっとで、帰ってこられるようにするから。」

といとこに言いました。いとは、安心した顔でうなずきました。それから1か月半がすぎ、いとは家族といっしょに新しい家に帰って行きました。前の学校にもまた通えるようになりました。

わたしは、「助かった命」の学習とこの体けんを通して、命はどんなものにもかえられない大切なものだということと、家族といっしょに生活することのありがたさを感じることができました。これからはずっと家族を大事にしていきたいです。